

はじめまして 高木 浩史 さん



本町の地域おこし協力隊第2号
高木浩史(たかき ひろふみ)さん(35歳)が
9月14日に着任しました
「弟子屈町ブドウ・ブドウ酒研究会」
「弟子屈町地域ブランド化推進実行委員会」
の一員として
町が新たな特産品としての確立を目指す
町産ワインの醸造や
ワイン醸造用のブドウ栽培などに
取り組みます

この度、弟子屈町の地域おこし協力隊になった高木浩史です。
高校生まで福岡県で過ごし、卒業後は網走市の東京農業大学オホーツクキャンパスに進学しました。もともと土いじりが好きで、農業関係に興味があったこと、北海道への憧れがあったことが、この大学を目指した理由です。
卒業までの6年間、北海道の魅力にすっかりハマりました。屈斜路湖畔の温泉など、弟子屈町へも何度も訪れました。そのころから、きれいなマチだなという印象があります。

卒業後は、東京都内の香料の会社に就職。約10年間、主に食品用香料の調査や開発を行ってきました。でも、いつか北海道に戻りたいという思いがありました。自然の中で何かを行うことが好きで、モノづくりを一から行いたいという夢もありました。そんなとき、弟子屈町が地域おこし協力隊を募集していることを知りました。ワイン用ブドウの栽培とワイン醸造ということで、モノづくりができる、しかもこれまでの香りの仕事で得た経験を生かせるのではないかと思いました。また年齢的にも、新しいことに挑戦できる最後のチャンスだと思い、思い切って応募しました。念願がかなって、本当にうれしいです。

弟子屈町の皆さんは本当に温かく、親身に接してくださって感謝しています。これからは、マチが明るくなれるような仕事をしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊は、人口減少や少子高齢化などの進捗が著しい地方において、地域外(都市部)の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする取り組みです。2009年に総務省によって制度化されました。

2014年度には、全国444の自治体で1,511人の隊員が活躍しています。本町でも今年の6月から、炭田晃希さんが地域おこし協力隊として活動しています。

高木さんプロフィール

- ▶ 出身/福岡県
- ▶ 趣味/釣り・花を育てること
- ▶ 特技/スポーツ全般
- ▶ 長所/人の話をじっくり聴いて自分の中に還元するところ
- ▶ 短所/マイペースでのんびり屋

協力隊通信 南弟子屈の風



日々の活動
発信中!



地域おこし協力隊facebook(フェイスブック)
<https://www.facebook.com/teshikagachiikiokoshikyouryokutai>



牛とのふれあいを楽しむ学生たち

地域おこし協力隊の炭田晃希です。今回は、先月紹介した「南弟子屈地域活性化協議会」の活動の一環として、大学生に地域資源発掘調査に来ていただいたので、その様子を紹介します。

「当たり前」の魅力と尊さを
みんなで再確認したい

9月11日〜16日、和歌山大学観光学部
の出口竜也教授と竹林浩志准教授のゼミ生9人が来町し、5日間かけて弟子屈町内や南弟子屈地域を調査しました。調査の目的は「地域資源」の発掘。分かりやす

く言えばお宝探しです。大学生に調査を依頼した理由は、大きく2つあります。1つ目は、地域住民だからこその日々の生活に埋もらせてしまう地域の特徴や魅力を発見してもらうこと。2つ目は、その魅力を南弟子屈地域活性化協議会で発表してもらい、地域に若い人が集まると楽しいという体験を地域の方にしてみらうためです。

どんなに豪華な食事でも、毎日食べていけば飽きてしまふ日が来るように、住んでいる私たちにこそ、弟子屈での暮らしは当たり前でしかありません。摩周湖のおかげできれいな水が飲めることは当然のこと、牧草や畑も見慣れた景色でしかありません。むしろ、それは「当たり前」と思ってしまうときがあるかもしれません。しかし、弟子屈町から出れば摩周湖の水は飲めないし、道外へ行けば延々と続く牧草畑を見ることも少なくなります。言い方を変えれば、弟子屈でしか味わうことができない水や景色が存在していると考えられることもできます。

牧草畑が観光地になるかは分かりませんが、このような情景(風景)は、弟子屈町や南弟子屈地域の特徴の一つとして挙げられることではないでしょうか。このように、自分では当たり前過ぎて何も感じないけれど、旅行に来た人はどのようなことを感じているのかが気になる大学生に調査を依頼しました。



学生たちの発表に僕も刺激を受けました

学生が気づかせてくれたこと 地域住民こそが地域の宝

南弟子屈をサイクリングしたり、(株)ツリーズムテシカガの雲海ツアーに参加したり、渡辺体験牧場で正しい牛乳の飲み方(?)を教えるもったりしながら、弟子屈の一部を体験してもらいました。そうした体験から、学生たちにとって弟子屈町はどのように見えているのかという報告をしていただきました。

報告の中で印象的だったことは、会話や交流した人との出来事が一番印象に残ったという話でした。早朝の雲海は絶景だったし、和琴半島でエソリスを見て驚いたりもしたけれど、サイクリング中や交流会でのバーベキューのとき、地域の方と話したことの方が印象に残ったと言ってくれました。弟子屈の地域資源として、摩周湖や屈斜路湖や温泉などの自然が挙げられますが、その中で暮らす地域住民こそが一番の地域資源であると報告してもらいました。特に南弟子屈地域は昭栄小学校が閉校になり、コミュニティの縮小や人口減少という面では町内で先頭を走っています。この調査をきっかけに、南弟子屈地域の在り方を今後一緒に考えていきたいです。